

2024年3月期 決算補足説明資料



—やすらぎと安心の創造—

証券コード:5237

1. 2024年3月期 連結決算の概要	P. 3
2. 連結貸借対照表前期末比較	P. 8
3. 連結キャッシュ・フローの状況	P. 9
4. 連結経営指標（5年間推移）	P.10
5. 設備投資、減価償却費の状況	P.12
6. 2025年3月期 業績予想	P.13
7. 中期経営計画（2024年3月期～2026年3月期）	P.17
8. 株主還元方針	P.19
9. ESG経営への取り組み	P.20
10. トピックス	P.24

1. 2024年3月期 連結決算の概要

1-1 連結損益計算書前期比較

(金額:百万円)

	2024/3月期 実績		2023/3月期 実績		増減		2024/3月期 予想値	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	達成率
売上高	23,074		20,975		+2,099		23,500	98.2%
営業利益	1,780	7.7%	1,007	4.8%	+773	+2.9pt	1,930	92.2%
経常利益	1,938	8.4%	1,147	5.5%	+791	+2.9pt	1,980	97.9%
特別利益	-	-	151	-	▲151	-	-	-
特別損失	529	-	547	-	▲17	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	874	3.8%	486	2.3%	+388	+1.5pt	930	94.1%

当連結会計年度は、ウクライナ侵攻・中東情勢の悪化等、景気下振れリスクが高まる状況で推移しました。国交省統計によると鉄骨造着工床面積も前期を割り込んでおり、事業環境は厳しい状況が続いております。

このような状況のなか当連結会計年度の連結業績は、押出成形セメント板の販売が増加したこと等から前期比増収増益となりました。

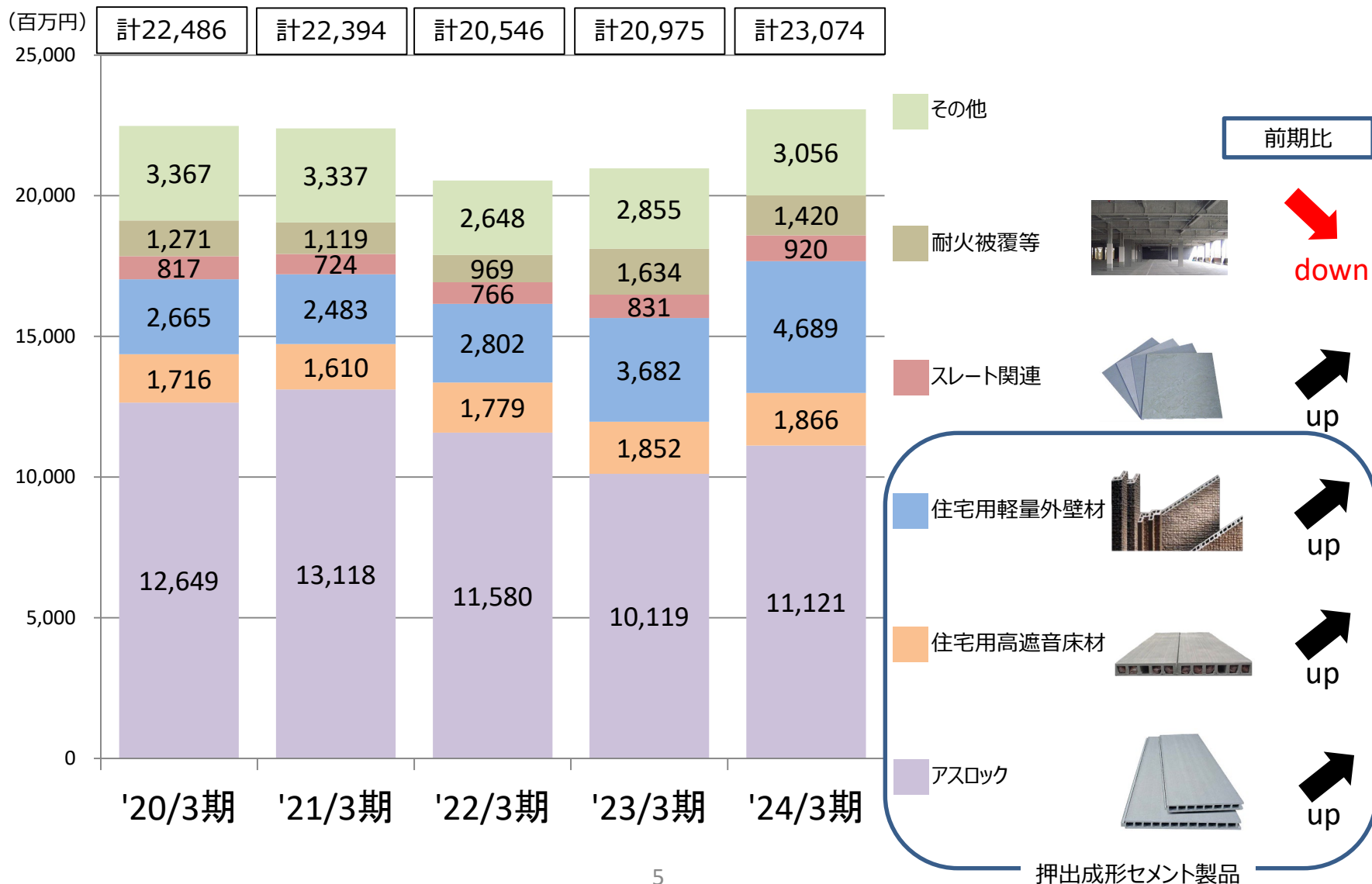
1. 2024年3月期 連結決算の概要

1-2 売上高 [前期比20億99百万円増収の230億74百万円]

- 主力の一般建築向けの押出成形セメント製品「アスロック」については、高付加価値商品の拡販に注力し、メンテナンスフリーと工期短縮を実現するカーテンウォール「アルカス」や、光触媒でセルフクリーニング効果が期待でき、全ツヤ消しマット調の落ち着いた質感をもつ工場塗装品「ルミセラコート」の販売が伸長しました。
- また、価格改定が浸透してきたこともあり、アスロック売上高は前期比10億2百万円増収の111億21百万円となりました。
- 住宅向け押出成形セメント板は前期に引き続き堅調に推移し、「住宅用高遮音床材」は前期比14百万円増、「住宅用軽量外壁材」は前期比10億7百万円増となり、これら住宅向けで10億21百万円増収の65億55百万円となりました。押出成形セメント板合計では前期比20億23百万円増の176億77百万円となりました。
- スレート関連は、モルタル仕上げのような熟練した職人技術を必要とせず、簡単な施工でコンクリート打放し風の内装仕上げが可能な「フレキシブルシート素地シリーズ」が好評を博しており、当期も増販となったこと等から前期比88百万円増収の9億20百万円となりました。
- 工事については、AL工事やALC工事が伸びて、前期比4億22百万円増となりました。

1. 2024年3月期 連結決算の概要

1-2 売上高 [連結品種別売上高推移]



1. 2024年3月期 連結決算の概要

1-3 各段階利益

[営業利益 前期比7億73百万円増益の17億80百万円]

- 当期の資源価格変動の影響については、電力・ガス価格は2023年に入って以降徐々に落ち着きを見せ、高騰のピーク時と比べると安定して推移しました。一方、原材料価格は一貫して上昇を続けております。また、人件費についてもベースアップの実施や外注増加により前期比増となりました。これらの要因や販売数量増による影響も併せ、13億円の原価アップとなりました。
- この厳しい状況のなか、工場では、NNPS（ノザワ・ニュー・プロダクション・システム）改善活動によるコストダウンの推進等により約4.5億円の原価ダウンとなり、売上原価の上昇額を8.5億円に留めました。
- 販売口売上総利益は、販売数量増や販売価格改定による増収効果に、上記の原価上昇を加味し、8.1億円の増益となりました。
- 工事については、売上高は4.2億円の増収ながら、競争激化等の影響で子会社であるノザワ商事の工事利益率が低迷し、0.2億円の増益と小幅に留まりました。
- これらのことから、連結売上総利益は前期比8億39百万円増加の65億74百万円となりました。
- 販管費については、販売増による物流費の増加等により前期比65百万円増加の47億93百万円となりました。なお、売上高比販管費率については、1.7ポイントダウンの20.8%となっております。
- これらのことから営業利益は前期比7億73百万円増益の17億80百万円となり、営業利益率は2.9ポイントアップの7.7%となりました。

1. 2024年3月期 連結決算の概要

1-3 各段階利益

[経常利益 前期比7億91百万円増益の19億38百万円]

- 営業外収支については、受取配当金が前期比17百万円増加したこと等により22百万円増となった一方、営業外費用が4百万円増加し、前期比17百万円の増加となりました。
- 経常利益は、営業増益にこの営業外収支の増加を加味し、前期比7億91百万円増益の19億38百万円となりました。

[親会社株主に帰属する当期純利益 前期比3億88百万円増益の8億74百万円]

- 特別利益は当期はなく、前期比1億51百万円減少となりました。
- 特別損失は前期比17百万円減少の5億29百万円。固定資産除却損が69百万円、訴訟損失が1億54百万円それぞれ増加した一方、製品自主回収関連費用は当期は特別損失の計上が無く、前期比2億4百万円の減少、また、関係会社清算損失も当期計上無く、前期比36百万円減少したことによります。
- これらの結果、特別損益の合計は5億29百万円の損失となりました。上記のとおり特別損失は前期比減少したものの、当期は特別利益の計上がなかったため、特別損益は前期比では1億33百万円悪化しました。
- 上記に税金費用を加味し、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比3億88百万円増益の8億74百万円となりました。

2. 連結貸借対照表前期末比較

【連結貸借対照表 主な前期末比増減】

科目	増減額	科目	増減額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	+395	支払手形及び買掛金	+60
受取手形及び売掛金等	▲702	未払法人税等	+76
棚卸資産		賞与引当金	+15
商品及び製品	+3	その他	▲591
仕掛品	+57	計	▲440
原材料及び貯蔵品	+34	固定負債	
未成工事支出金	▲24	退職給付に係る負債	▲80
その他	+107	訴訟損失引当金	+301
計	▲127	その他	▲19
固定資産		計	+200
有形固定資産	+275	負債計	▲239
無形固定資産	▲9	純資産	
投資有価証券	+1,070	資本剰余金	+65
繰延税金資産	▲463	利益剰余金	+475
その他	+344	自己株式	+52
計	+1,217	その他有価証券評価差額金	+694
		退職給付に係る調整累計額	+39
		純資産計	+1,328
資産計	+1,089	負債純資産計	+1,089

【総資産の増減】

総資産は前期末比10.8億円増加。主に投資有価証券が時価上昇等で10.7億円増加したことによります。

【負債の増減】

負債は前期末比2.3億円減少。主にその他の流動負債5.9億円の減少及び訴訟損失引当金3.0億円の増加によります。

【純資産の増減】

純資産は前期末比13.2億円増加。利益剰余金が4.7億円、その他有価証券評価差額金6.9億円、それぞれ増加したことによります。

3. 連結キャッシュ・フローの状況

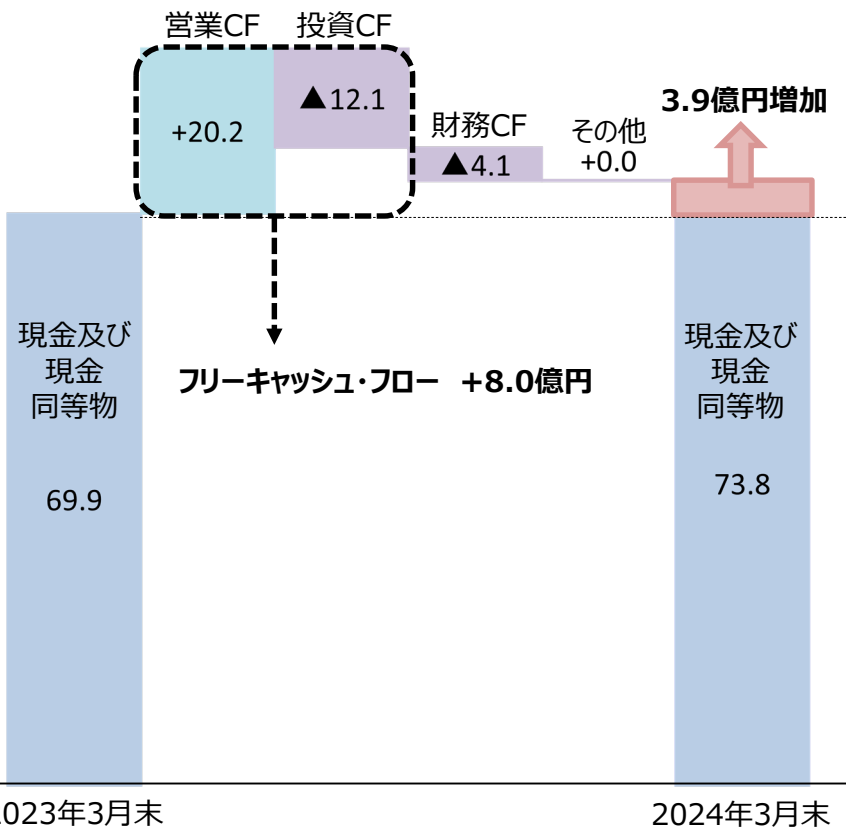
- 営業キャッシュ・フローは+20.2億円、投資キャッシュ・フローは有形固定資産の取得等により▲12.1億円となり、フリーキャッシュ・フローは+8.0億円。財務キャッシュ・フローは▲4.1億円。
- 上記の結果、当期末の現金及び現金同等物は前期末比3.9億円増加の73.8億円。

【現金及び現金同等物の増減内訳】

(億円)

【連結キャッシュフロー計算書 概要】

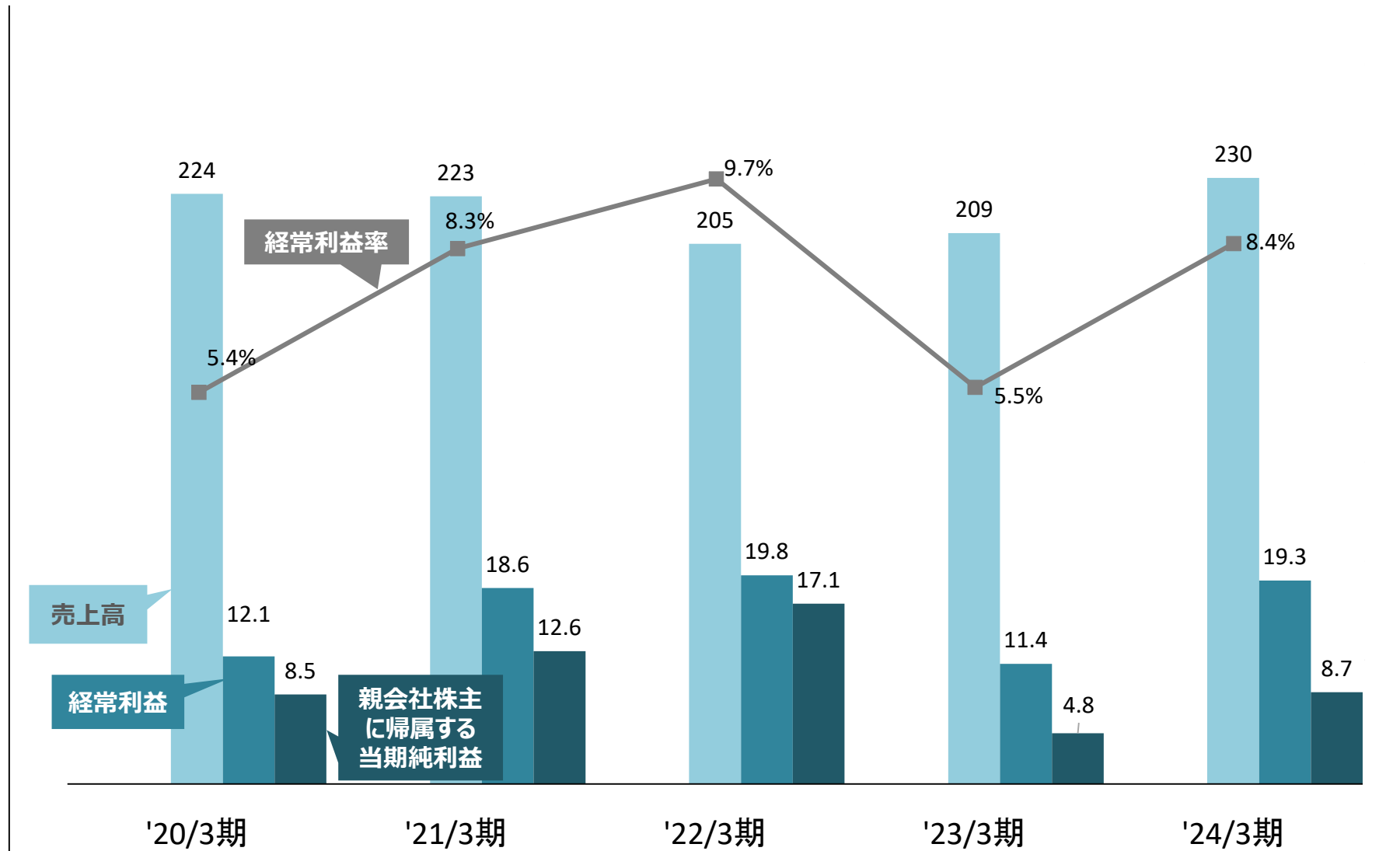
(百万円)



税金等調整前当期純利益	1,408	
減価償却費	727	
売上債権の増減額	606	
棚卸資産の増減額	▲70	
仕入債務の増減額	▲6	
その他	▲638	
営業活動によるキャッシュ・フロー計	2,027	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,218	主に有形固定資産の取得
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲413	主に配当金の支払い

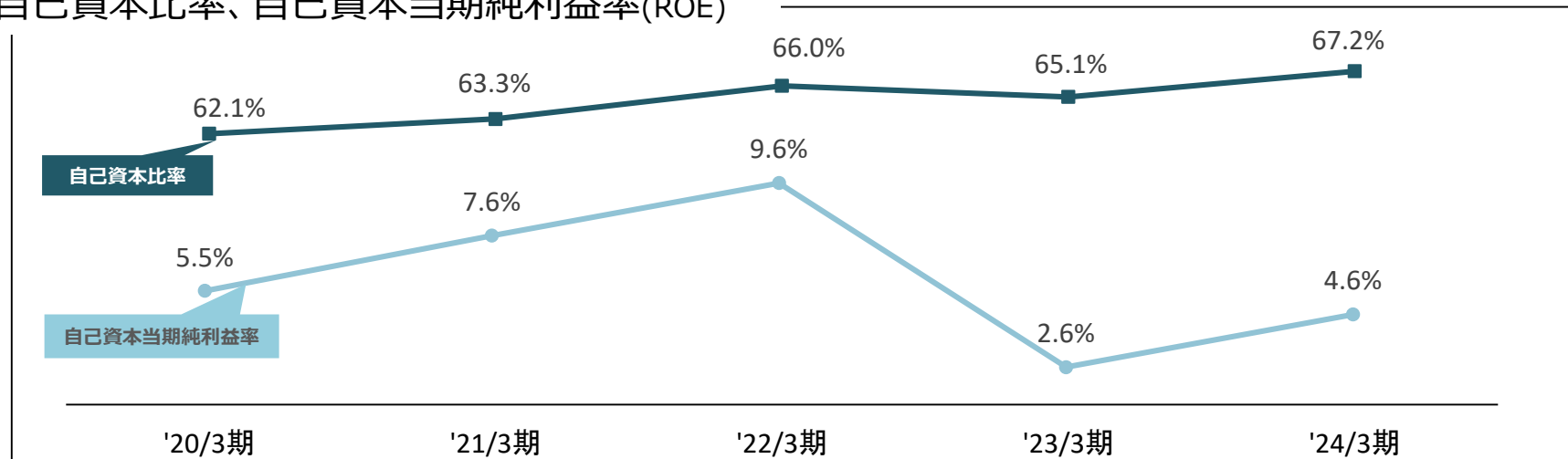
4. 連結経営指標（5年間推移）

売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益（億円）並びに経常利益率（%）

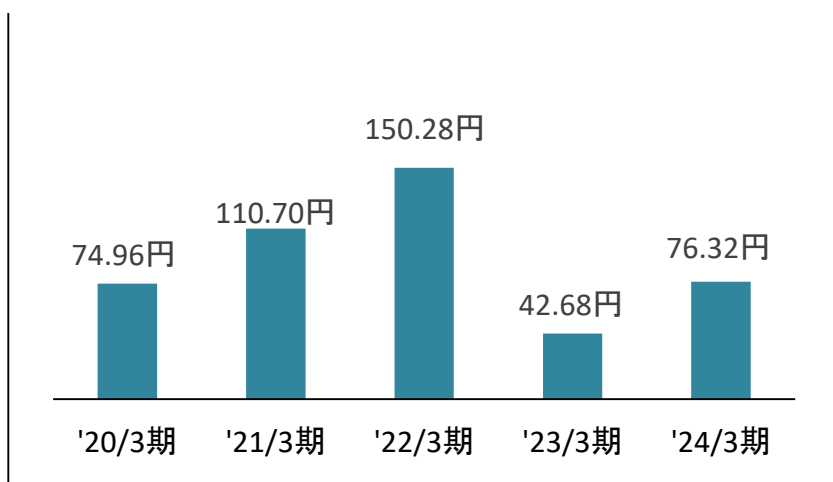


4. 連結経営指標（5年間推移）

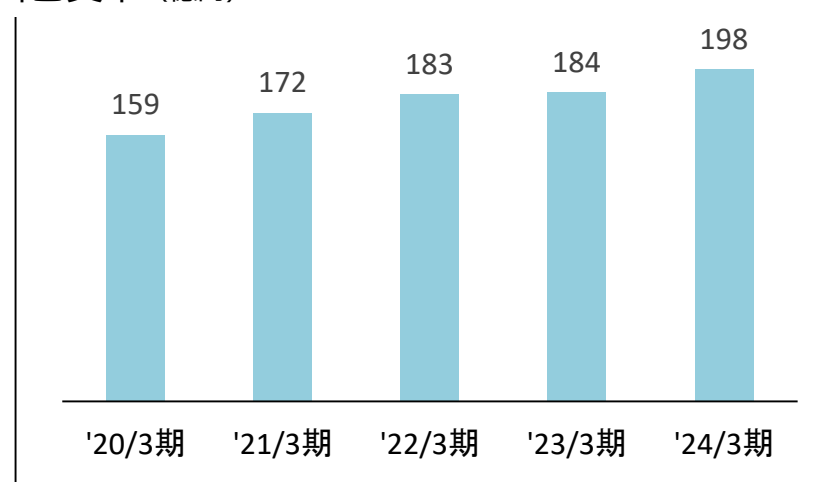
自己資本比率、自己資本当期純利益率(ROE)



1株当たり当期純利益

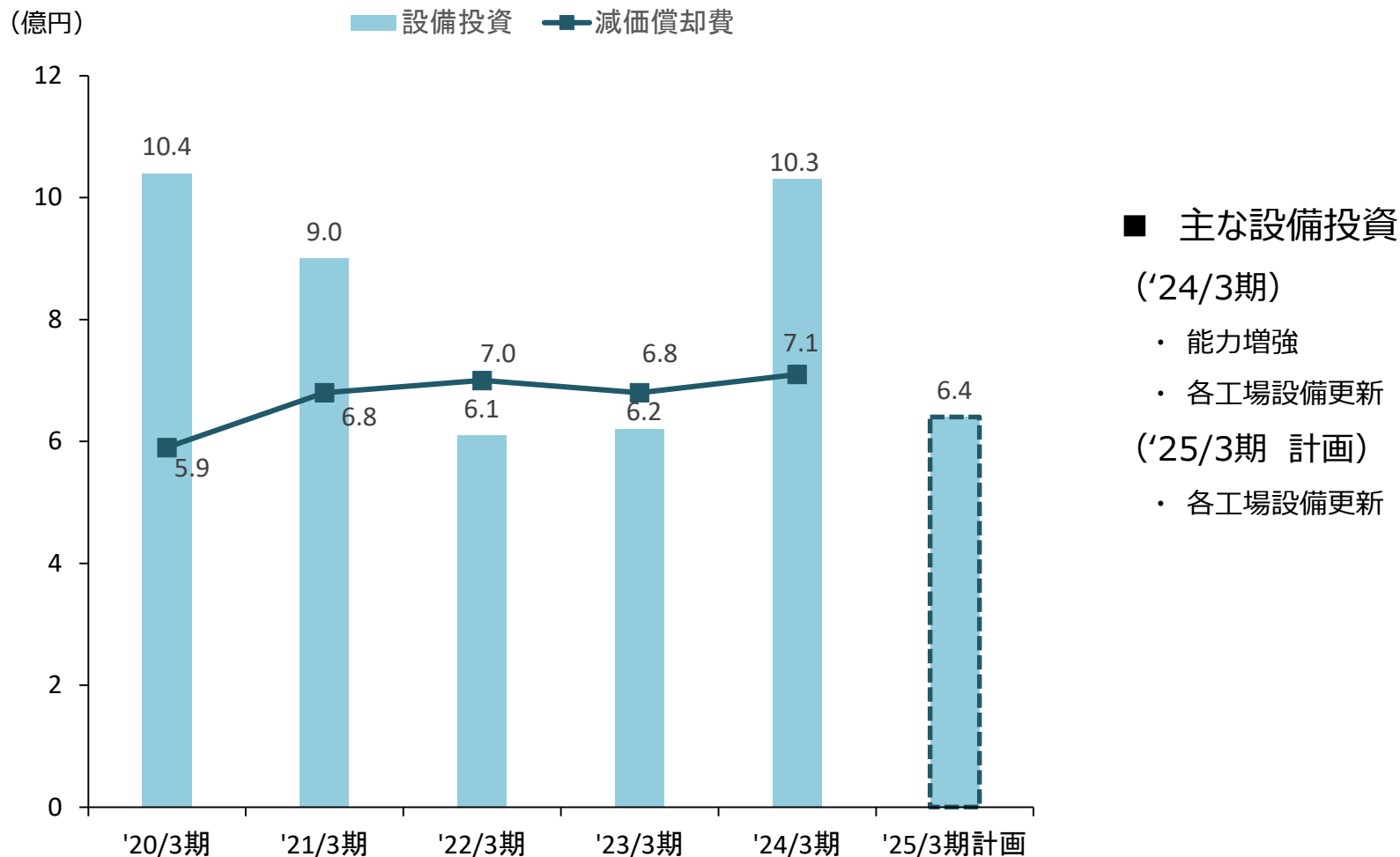


自己資本（億円）



5. 設備投資、減価償却費の状況

【設備投資、減価償却費の推移】



6. 2025年3月期 業績予想

(金額:百万円)

	2025/3月期 予想				2024/3月期 実績				増減			
	第2四半期		通期		第2四半期		通期		第2四半期		通期	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率
売上高	11,000		23,500		12,028		23,074		▲1,028		+425	
営業利益	870	7.9%	2,000	8.5%	1,040	8.6%	1,780	7.7%	▲170	▲0.7pt	+219	+0.8pt
経常利益	910	8.3%	2,100	8.9%	1,149	9.6%	1,938	8.4%	▲239	▲1.3pt	+161	+0.5pt
親会社株主に帰属する当期純利益	600	5.5%	1,400	6.0%	320	2.7%	874	3.8%	+279	+2.8pt	+525	+2.2pt

6. 2025年3月期 業績予想

【上期業績見込】

売上高

- 前期である2024年3月期の下期後半より納期調整や建築コスト高騰による受注減が徐々に顕在化し、アスロックの売上高が失速しました。2025年3月期の前半もこの傾向が続き、上期のアスロック売上高は前年同期比減収と見込んでおります。一方、住宅向け商品については引続き堅調に推移すると見ており、前年同期比増収となる見通しです。
- 工事については、新規受注の落ち込みにより減収の見込み。これらのことから連結売上高は10億28百万円減収の110億円を見込んでおります。

利益

- 2025年3月期も資源高の影響が続くことが想定され、人件費の増加も見込まれることから原価高で推移すると見込まれます。
- N N P S 改善活動を実行するとともに、製造現場全体の人材育成を図り改善力を向上させ、コストアップ抑制に継続して取り組むものの、営業利益は前年同期比1億70百万円減益となる8億70百万円、経常利益は前年同期比2億39百万円減益となる9億10百万円となる見込みです。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期は訴訟損失に3億76百万円を計上していた影響もあり、前年同期比2億79百万円増益となる6億円を見込んでおります。

6. 2025年3月期 業績予想

【下期業績見込】

売上高

- 上期に低迷したアスロック販売は、最近の新商品投入効果や「アスロックグリーンウォール」・「アスロックソーラーウォール」など環境対応商品の採用効果により、下期に入り次第に回復すると見込まれ、価格改定の更なる浸透見込みも相まって、下期のアスロック売上高は前年同期比増収となると見込まれます。住宅向け商品については下期も堅調に推移し、前年同期比増収の見込です。
- 工事についても下期は前年同期比増収の見込みで、これらのことから前年同期比14億53百万円増収の125億円を見込んでおります。

利益

- 上期同様、資源高の影響や人件費増加が続くことが想定されますが、上期同様コストアップの抑制及び製品販売価格改定効果により、営業利益は前年同期比3億89百万円増益となる11億30百万円、経常利益は前年同期比4億円増益となる11億90百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億45百万円増益となる8億円を見込んでおります。

6. 2025年3月期 業績予想

【通期業績見込】

- 売上高は前期比1.8%増、4億25百万円増収となる235億円、営業利益は前期比2億19百万円増益となる20億円、経常利益は前期比1億61百万円増益となる21億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比5億25百万円増益となる14億円を見込んでおります。
- 今後も引続き、均一で美しい仕上げで現場省力化も実現する「工場塗装品」や環境対応商品「アスロックグリーンウォール」・「アスロックソーラーウォール」やスレートボードの「フレキシブルシート素地シリーズ」など、当社独自の高付加価値商品の積極的・戦略的な営業展開により競合商品との差別化を推進するとともに、住宅向け商品の需要増加に対応するべく生産性向上の改善に取り組むなど、収益拡大を図ることで中期経営計画に掲げた目標「2026年3月期経常利益率12%以上」の達成に向け取り組んでまいります。

7. 中期経営計画 (2024年3月期～2026年3月期)

＜基本方針＞

2027年の創業130周年に向け、経営基盤の強化と事業の更なる発展を図るため、いつも新しいことを追求、「**全社三大戦略プラスONE**」を展開し、全領域での差別化を推進する。

2026年3月期 経常利益率12%以上を目指す。

2024年3月期の「**全社三大戦略プラスONE**」の進捗は以下の通りです。



収益拡大戦略

- 差別化戦略の推進による顧客満足度の向上により基幹事業を拡大
⇒2024年3月期実績：
アスロック売上高前期比109.9%
住宅向け押出成形セメント板売上高前期比118.5%
- 超高層向け「アルカス」、住宅用ボードの拡販
⇒2024年3月期実績：
超高層向け「アルカス」売上高前期比141.5%
ボード売上高前期比110.9%

飛躍成長戦略

- 差別化商品の新商品開発。
⇒2024年3月期新商品発売3件：
工場複色塗装品「淡斑（あわむら）」・
エンボスパネル「ラインピール」・デザインパネル「ドミナント」
- 顧客の要望を満足する新商品開発
⇒2024年3月期新商品発売2件：
デザインパネル「レイライン」・
レベルファスターストロング 高耐力留付仕様「Rクリップ + NVナット」
- 持続可能な製造技術の追求
⇒2024年3月期実績：CO2吸収型押出成形セメント板の製品化技術開発に着手(P.20参照)
- 新商品売上高比率30%以上
⇒2024年3月期実績：新商品売上高比率7.2%

7. 中期経営計画 (2024年3月期～2026年3月期)

体質強化戦略

○原料エネルギー高騰に耐えるコストダウン

⇒2024年3月期実績：NNPS（ノザワ・ニュー・プロダクション・システム）改善活動により製造原価約4.5億円のコストダウン

○住宅向商品増産体制の構築

⇒2024年3月期実績：加工ライン増設による加工能力43%アップ

○IT活用による経営効率のアップによる企業価値の向上

⇒2024年3月期実績：法令改正（インボイス制度・電子帳票保存法）に伴うITシステム対応

「プラスONE」ESG経営への取り組み

○カーボンニュートラルの実現

⇒温室効果ガス排出削減目標に対する進捗状況を2023年9月に当社ホームページ、2023年11月に決算補足説明資料、2023年12月に事業報告書にて開示

○積極的な情報開示、公正・透明な経営、コンプライアンス遵守

⇒サステナビリティ、ESG経営への取り組みについてはP.20～P.23を参照ください。

○従業員エンゲージメントの向上

⇒2023年4月、2024年3月に全従業員への譲渡制限付株式付与

○2024年物流問題対応

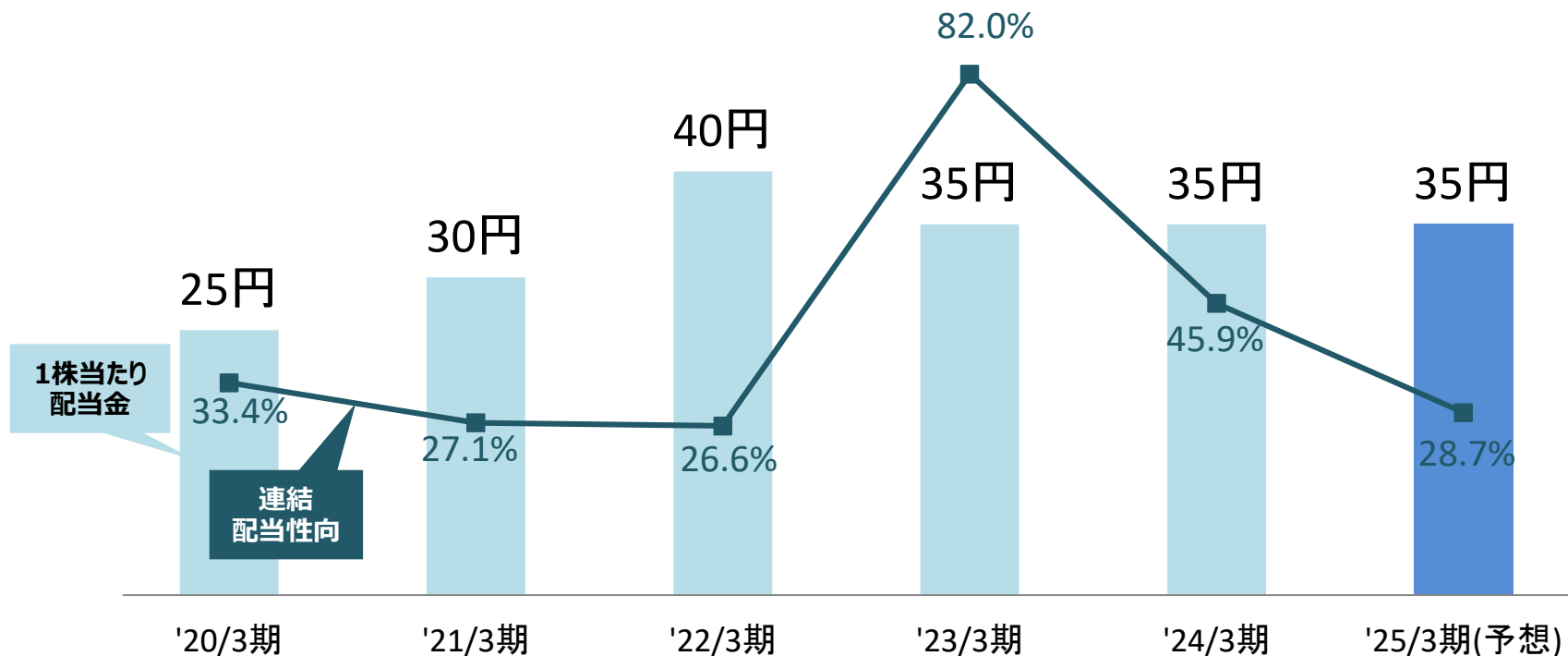
⇒2023年10月より今まで通りの運送能力確保に向けた取り組みを開始し輸送基地設置、海上輸送経路の開拓、荷待ち時間規制への対策を実施しております。

8. 株主還元方針

当社は、将来の設備投資、研究開発に備え、経営基盤及び財務体質を強化すべく内部留保の充実を前提とし、連結配当性向30%を目途に業績に見合った株主への安定的な配当の維持及び適正な利益還元に努めてまいります。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、株主総会であります。

配当金推移



9. ESG経営への取り組み

環境 (Environment) ……カーボンニュートラル

2023年度日本建築学会大会（近畿）に当社技術研究所主任研究員が学術講演を行いました。（2023年9月13～15日）

講演の題目

「低炭素型押出成形セメント板(ECP)の開発
その2 小型押出機で製作した試験体による炭酸化の効果の確認」

発表者

- 小林咲恵(ノザワ) 巴史郎(鹿島建設)
笠井浩(鹿島建設) 閑田徹志(鹿島建設)

講演の題目

「低炭素型押出成形セメント板(ECP)の開発
その1 二酸化炭素排出量に関する検討」

発表者

- 巴史郎(鹿島建設) 小林咲恵(ノザワ)
閑田徹志(鹿島建設) 笠井浩(鹿島建設)

○印は講演者 敬称略



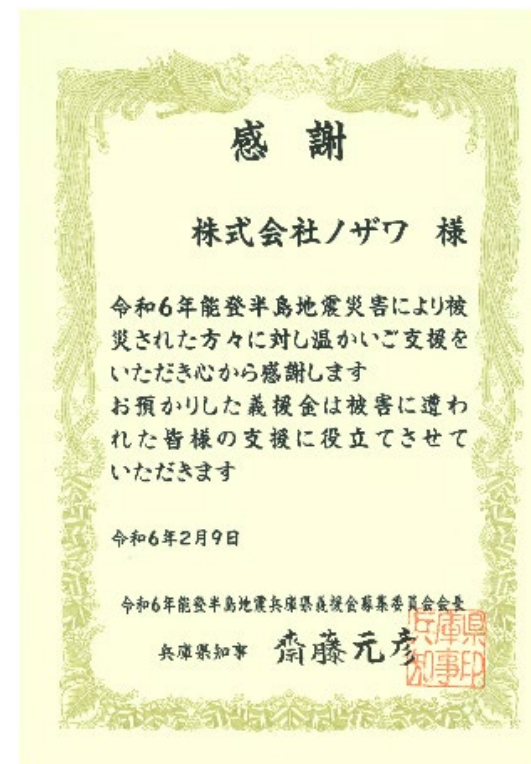
9. ESG経営への取り組み

社会 (Social) ……社会貢献

令和6年能登半島地震による被災者および被災地支援

2024年2月、「令和6年能登半島地震兵庫県義援金募集委員会」を通じて、200万円を寄付したことに對して、兵庫県より感謝状をいただきました。

一日も早く、被災者の皆様が平穩な生活を取り戻されることを心よりお祈り申し上げますとともに、過去の震災で得られた教訓から、知恵と努力で、人々の明るい笑顔・楽しい思い出を守り、「やすらぎと安心の創造」を通じて、社会貢献してまいります。



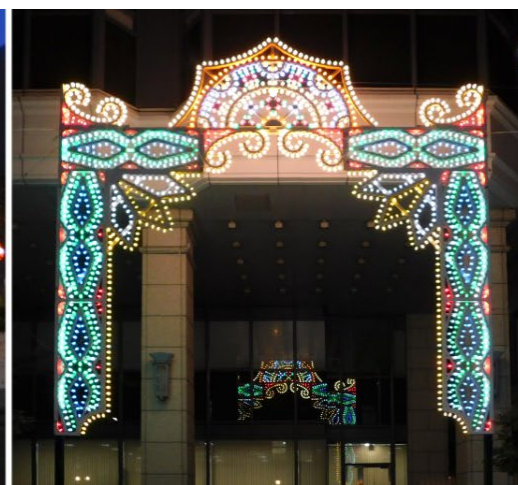
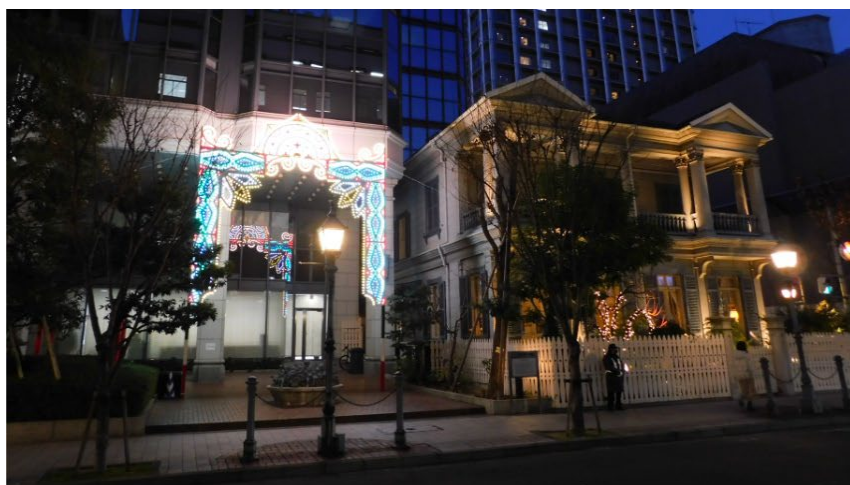
兵庫県義援金募集委員会からの感謝状

9. ESG経営への取り組み

社会 (Social) ……社会貢献

神戸ルミナリエに協賛 本社ビル「15番館」の公開空地に作品を展示

2024年1月19日（金）より、「神戸ルミナリエ」が4年ぶりに開催されました。弊社は、阪神淡路大震災の犠牲者の鎮魂と復興への願いを込めて、「神戸ルミナリエ」に協賛し、当社本社ビル「15番館」の公開空地を提供、作品を展示いたしました。今後も、阪神淡路大震災の復興を祈願した「神戸ルミナリエ」を応援してまいります。



当社本社ビル「15番館」公開空地の展示作品

9. ESG経営への取り組み

企業統治（Governance）……………公正・透明な経営

従業員譲渡制限付株式制度導入

ノザワグループ全従業員に対してグループの企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えると共に、経営への貢献意欲を従来以上に高めること目的として、譲渡制限付株式制度を導入し、2023年4月、2024年3月にあわせて137,800株を譲渡制限付株式として付与しました。

また、福利厚生増進策の一環としての側面もあることから従業員エンゲージメントの向上にも貢献しています。

10. トピックスー新商品発売

工場複色塗装品「淡斑（あわむら）」を2024年1月発売



ウッドデザインシリーズ
彩実 淡斑（あやざね あわむら）

「淡斑（あわむら）」は、熟練した外壁塗装職人にしか表現できなかった独特の色斑や染斑を工場塗装で対応可能にした革命的な工場複色塗装品です。「淡斑（あわむら）」は交じり合った二色の濃淡が風情ある斑となった仕上がりで、アスロックならではの繊細かつ重厚感あるパネル意匠と調和し、情趣ある外観を演出します。

「ロックエンボスシリーズ」に二色の濃淡の斑が交じり合った工場複色塗装仕上げ「淡斑（あわむら）」のラインナップを2024年2月に追加しました。



ロックエンボスシリーズはつり 淡斑



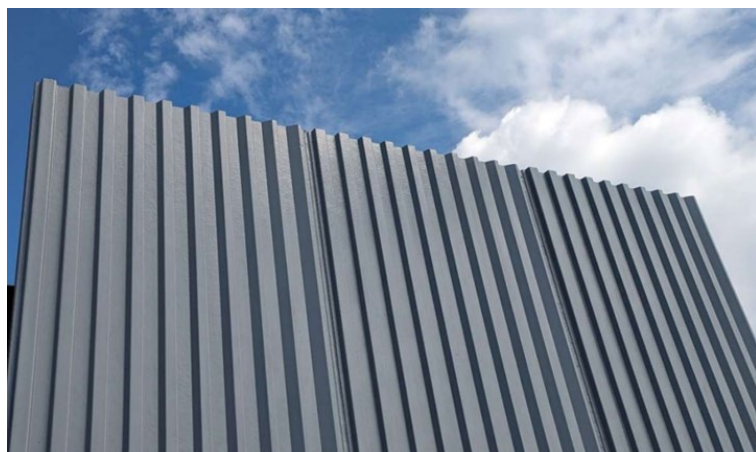
ロックエンボスシリーズ大谷 淡斑

10. トピックス-新商品発売

意匠系新商品を2024年2月より発売

「ドミノラインT」 <意匠登録出願済>

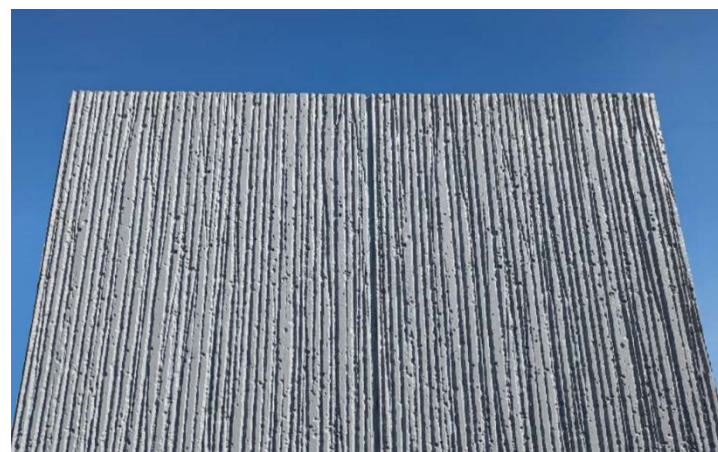
「ドミノラインT」はパネル表面に施したリブをドミノが倒れていくように少しずつ傾斜にすることで、均一なデザイン性を保ちつつ、壁面にリブの繊細な影のグラデーションが発現する特徴があります。
このグラデーション効果は太陽の動きに伴い変化するため、時間の経過により壁面全体が幻想的に遷り変わります。



ドミノラインT

「ラインピール」 <意匠登録出願済>

「ラインピール」はアスロックの表層を、あたかも熟練工が鑿（たがね）や鑿（のみ）で削り取ったような繊細で深みのある削跡やクレーターを忠実に再現したデザインパネルです。アスロックならではの重厚な質感と極め細やかなテクスチャーが調和し、威風ある壁面を構成します。



ラインピール

10. トピックスー採用したい建材・設備メーカーランキング

日経アーキテクチュア採用したい建材・設備メーカーランキング 8年連続 通算17回目 第1位



押し出し成形セメント板などの
外装材（セメント系、樹脂系など）部門

1位

読者を対象に、建材・設備メーカーの
製品採用意向等をアンケート調査
2023年11月23日号

当社の商品の外装材部門以外のランキング

RC用外断熱工法部門

3位

読者を対象に、建材・設備メーカーの
製品採用意向等をアンケート調査
2023年11月23日号

耐火被覆部門

3位

読者を対象に、建材・設備メーカーの
製品採用意向等をアンケート調査
2023年11月23日号

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。